非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2017 年 6 月 20 日　月刊第 227 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　原水爆禁止国民平和大行進・参加報告　神田順一
3 面　DVD「この空を見上げて～石川・被爆者たちの証言～」が遂に完成　竹嶋和江
4 面　今の中国をどうみるか　田中義教
5 面　道徳教科化は戦争できる国への危険な道　安原昭二
6 面　はだしのゲンをひろめる会総会報告　はくい 9 条の会の取り組み　北川真知子
「レーニンと『資本論』」に学ぶ　倉元浩信
7 面　＜独票より＞　終末時計　喜多村貢
編集室より
8 面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　田伏久子

核兵器を禁止し廃絶する条約を！

原水爆禁止国民平和大行進・参加報告

神田 順一

今年の原水爆禁止国民平和大行進は、国連で核兵器禁止条約の交渉会議が開催される歴史的な時期におこなわれています。非核の政府を求める石川の会では、「原爆と人間展」の開催自治体をふやすことと各自治体での「ヒバクシャ国際署名」（以下、国際署名）を推進するため、今年も平和行進に参加しています。

六月一一日から行進を開始した「能登コース」の初日、二日目につき、報告します。

輪島市役所前の出発集会を終えて

◎輪島市から国際署名を二二四筆。輪島朝市通りを行進中に一五九筆の署名も寄せられました。

◎能登町は五月の訪問時に「原爆と人間展」パネルを貸し出しましたが、展示スペースがなく、開催できず。国際署名を一五六筆いただきました。

◎珠洲市は五月の訪問時に「原爆と人間展」パネルを貸し出しましたが、パネル展開催や国際署名はありません。

◎穴水町は昨年同様、「原爆と人間展」パネル展の開催を了解いただき、パネルを貸し出しました。国際署名は町長、議長はじめ一二五筆いただきました。

◎志賀町から国際署名を町長、議長はじめ二三〇筆いただき、総務課長は平和行進に一部ご一緒に歩きました。

◎中能登町の歓迎集会は毎年、町長から激励挨拶をいただき、国際署名は後日送付いただくことになりました。

◎七尾市から国際署名を四六筆。千羽鶴を石川県行進団に贈呈いただきました。

（二面に平和行進・関連記事）

花鳥風月

『ヒロシマの有る国で』という曲を今、うたごえ全国祭典絡みで練習中である。三〇年以上前にこの曲に出逢った時にはまだ実感が伴わなかった。しかし今は万感胸に迫るものがある▼それは秘密保護法、盗聴法拡大、「マイナンバー」、「戦争法」、そして「共謀罪」等の流れの先にある〝内心の自由〟が封殺される監視社会の空恐ろしさに背筋が凍るからである。口先で「一般人は無関係」とその場をしのいでも、やがては解釈が変更され、執行がエスカレートして、権力が己に批判的な人々に牙をむくことは火を見るより明らかだ▼先の大戦が何故に起こり、何故に止めることが出来なかったのか。言論や表現が萎縮し、自由が奪われ、市民社会を死なせてしまった痛苦の反省と、二度と再び繰り返すまいと胸に刻んだ誓いを、決して忘れてはならぬ▼「共謀罪」審議のなかで「テロ対策」と虚言し、「治安維持法は合法的に制定され執行された」とする輩は、官憲による小林多喜二ら多数の内偵・投獄・拷問・虐殺もまた合法だと恥知らずに言い放つ▼この曲に出逢った時には、こんな時代が来ることは予想だにしなかった。いま歌いたい。♪ヒロシマの有る国で♪しなければならないことは♪灯るいくさの火種を♪消すことだろう

（中）

2017 原水爆禁止 国民平和 大行進

能登町では多数の地元町民の参加があり、能登線の元宇出津駅前からスタート

輪島朝市の平和行進ではお店の方から国際署名が 159 筆寄せられました

中能登町では杉本栄蔵町長が激励挨拶、「非核・平和宣言標柱」前で記念撮影

穴水町役場前では副町長はじめ町職員 22 人に出迎えていただき、到着歓迎集会が開かれました

能登コース

七尾市から千羽鶴をいただきました

能登コースが 6 月 11 日、輪島市役所前からスタート！6 月 11 日、12 日の平和行進を写真でご紹介します。
＊平和行進の参加報告は本会 HP に掲載します。

志賀町では総務課長も平和行進に参加し、「非核宣言塔」前にて記念撮影

二〇一七年原水爆禁止世界大会に非核石川の会 代表派遣を！派遣費用募金にご協力ください

核兵器禁止条約の制定の動きの中で国連代表、政府代表、市民社会が力を合わせ、新たな歴史のページを開く大会になるでしょう。

今年の世界大会は長崎で開催

八月七日（月）開会総会
八月八日（火）分科会／動く分科会／国際交流フォーラム
八月九日（土）閉会総会
が計画されています。

参加者を募集します

石川県代表団として参加します。参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

代表派遣費用の募金のお願い

代表派遣に必要な費用は約九万円です。郵便払込用紙を同封しますのでご支援をお願いいたします。

非核の政府を求める石川の会
常任世話人会

ＤＶＤ「この空を見上げて～石川・被爆者たちの証言～」が遂に完成

制作にかかわられた竹嶋和江さんのお話

フリーランスアナウンサー
竹嶋和江さん

竹嶋和江さんは、「石川県の被爆者の平均年齢は八三歳です。このＤＶＤは、石川県原爆被災者友の会の七人の、貴重な被爆の証言です」「長い間、口をつぐんでおられた方もいらっしゃいます」「平和教育は命の大切さを学ぶとてもすばらしい教育だと思います」と話を切り出されました。

◇　◇

私は富山県出身で、中学の二年間、家族の転勤のため広島で生活、そこで被爆者の惨劇を知りました。

ところが、再び富山県に戻った時に、広島で暮らしていたというだけで、クラスメートから『ゲンバク』というあだ名をつけられ、机の上や黒板にまで『広島へ帰れ！』と書いてあったのです。ですから福島の子どもたちの気持ちがよく分かるのです。その時に『広島から富山に来たからといって、ゲンバクとは何だ！』と思えたのは、平和教育のお陰だと感じているのです。

いま石川県内では、この平和教育が遠ざけられているとお聞きして、これではいけないと思っています。石川テレビ放送（株）へ入社してからも、『戦争させてはならない』という立場で仕事に臨んでいました。

入社当時、石川県原爆被災者友の会の会長をされていた谷岡房江さんを取材させていただいたのですが、努力も空しく、放送に至りませんでした。その後、育児休暇で現場を離れましたが、当時の事務局長の西本多美子さんとは引き続き年賀状のやり取りをしていました。

三年前に久しぶりに西本さんとお会いして、「一〇年前と比べて本当に被爆者の力が落ちている、原爆被災者の体験を伝えるＤＶＤを残したい」との相談を受け、編集の経験があるので、その準備を始めました。

ただその時も二人目の幼子の子育てに追われて大変でした。でも〝この仕事は今しかできない〟と覚悟を決めて思い切って退社し、五〇万円を用意して、『この空を見上げて』に取り組み始めたのです。

去年のある朝、いつものように朝日新聞を見たら、西本多美子さんが、「ＤＶＤを七〇〇枚作って県内全ての学校と図書館に寄贈する」とおっしゃっているじゃありませんか。私は慌てて電話したのです。

大急ぎで資金の用意や編集のプロダクションへの折衝もしたのですが、技術的にも予算的にも目論見が違ってきました。

そこで結局、自分で編集することにしたのです。西本さんにはインタビューアーを務めていただき、被爆者の心に寄り添っていただきました。本当に感謝の気持ちで一杯です。このＤＶＤを多くの人に見ていただき、被爆の実相を後世に伝えたいと願っています。

◇　◇

完成したＤＶＤ『この空を見上げて～石川・被爆者の証言～』は、

① 子どもたちが見たヒロシマ・ナガサキ（当時子どもだった被爆者四名による証言）

② 兵隊さんが見たヒロシマ（救護活動や遺体処理にあたった元兵隊さん二名による証言）

③ 西藤少年が見たヒロシマ（一一歳の時、爆心地で見た光景を鮮明に記憶している西藤康廣さんの証言から核兵器の恐ろしさを伝える）

④ 朗読「タミちゃんの八月六日」は小さなお子さんにも理解しやすいように、二人のアナウンサーの朗読で編集。

この日は①②③まで試写と解説を交えながら見ました。

参加者は、改めて原爆被害の凄まじさに心が揺れました。

（まとめ　岩原茂明）

◎平和サークルむぎわらぼうしが六月三日、金沢市松ヶ枝福祉館にて開いた「この空を見上げて～石川・被爆者の証言～」ＤＶＤ鑑賞会でのお話です。

◆講演要旨◆

今の中国をどうみるか

日中友好、日中不再戦の立場から

田中 義教

日中友好協会会長の田中義教さん

前提として

反中国情報に依拠するのではなく、先ずは中国そのものを正しく知ることが大前提である。歴史に学びながら、日中関係を冷静に考え、その上で噛み合った議論を行い、相手の誤りを指摘できる信頼関係を構築していくことである。

「中華民族の偉大な復興」と「習近平氏を核心とする」体制

〝中国の夢〟即ち「中華民族の偉大な復興」は、一二年に習近平総書記が発表した思想で、中国共産党第一八回全国代表大会より統治理念となった。それが〝人民に幸せをもたらす〟とされ、国力を強化し、軍隊を強化し、いかなる場合も〝勝利できる〟ことを優先する体制の確立を目指している。また全人代などで「習近平同士を核心」と繰り返して強調している。

このことは、中国の領土と国防の関係において違和感を抱かせるものである。しかしここに至る契機となったのが尖閣諸島問題であろう。

中国の対外政策

中国はGDP第二位の経済力を背景に一帯一路（陸と海のシルクロード）、AIIB（アジアインフラ投資銀行＝加盟七〇ヵ国）設立、G二〇主催など積極策を次々に打ち出し、領土問題では尖閣、東シナ海などを「核心的利益」として「毅然とした」態度で臨むなど、外交的攻勢を強めている。対日政策にあっては、「戦争法」を進める安倍政権に対抗するとともに、太平洋進出の意図を含んだ〝太平洋中米二分論〟にも言及し、中米二大国は互いに協力はするが各自の核心的利益は尊重する、ということを米国に認めさせるまでになっている。

同時に、クアラルンプール『アジア政党国際会議』において、「核兵器禁止条約国際交渉の開始」の文言に反対し、日本共産党を「覇権主義」と断じ、「日本は加害国なのに被害国を理由に被害者面している」と日本側を批判する。中国は今、核兵器禁止条約の国際交渉をめぐって動揺が見られ、核政策にあっては、平和愛好勢力から核保有国の立場に変質していく可能性があり、今後を見守る必要がある。

また南シナ海問題で、中国は常設仲裁裁判所の裁定受け入れを拒否したことは大きな問題である。領土問題の平和的解決には、国際法を根拠にすべきである。

中国の国内政策

李克強首相は三月の「全人代活動報告」で経済と雇用、貧困との闘い、環境問題、反腐敗闘争、国家分裂に対する厳しい姿勢など、国内問題の到達点と課題を示した。一三億国民とガバナンスの悩み、経済大国だが発展途上国という二面性、民族問題、民主化への強権的対応、想像以上の幹部の腐敗、懸念される文革の再来、過去の誤りを知らない世代の増加、台湾香港問題など、中華民族の偉大な復興という最終目標に至るまでの道程は、なお遠い。

かつての八路軍や中国人民に見られた高い道徳性は今どこへ行ったのか問われよう。〝三大規律〟とは、①指揮に従って行動せよ、②民衆の物は盗るな、③獲得したものは提出せよ、であり、〝八項注意〟とは、①話し方は丁寧に、②売買はごまかすな、③借りたものは返せ、④壊したものは弁償しろ、⑤人を罵るな、⑥家や畑を荒らすな、⑦婦女をからかうな、⑧捕虜を虐待するな、であった。

日中関係を通して中国を考える

今年は盧溝橋、南京大虐殺八〇周年、憲法施行七〇年。侵略と戦争の歴史を受け継ぎ、それを後世にどう繋げていくのかの叡智が今、求められている。

日中ですすむ軍拡、いっこうに改善されない相互にすれ違った国民感情等、困難はあるにせよ、対立を煽るばかりでは、何も解決しない。

実は、日中交流は大いに進んでいる。留学生間の交流は米国よりも多く、モノの交流も巨大な規模となっている。たとえ政府間は対立していても、もはや相手の存在は欠かせない。

日中は、引っ越しできない隣同士である。長期的視野に立って仲良く付き合う他ない。いがみ合っていたら失うものが無駄に増えるだけである。

過去の歴史を振り返りながら、お互いをリスペクトしあってこそ道は開かれる。人と文化の交流はその土台となろう。日本人も中国人も、同じ人間なのである。

（まとめ　中村昭一）

◎五月二七日、平和と労働会館で開かれた講演要旨です。

非核 平和のひろば

日本のうたごえ祭典の準備状況

中村昭一

祭典において地元実行委員会は「特別音楽会」（歌劇座）と「大音楽会」（いしかわ総合スポーツセンター）の二つの大きな演奏会を連続して主催します。現在、そのステージ練習が始まっています。五か月後に本番を控えた現在の最大の課題は、それへの参加者をどう増やし、どう内容を向上させ、如何にして勢いづけるか、ということです。

そのためには祭典を知ってもらうことは勿論、どんなステージがあり、どんな曲の練習が何処であるのかを知ってもらわねばなりません。

しかしながら、練習会の周知はまだまだです。〝祭典〟なので、観るだけではなく、「歌って参加するのがうたごえ祭典」という性格をもっともっと広める必要があると思っています。

チケットの販売も始まりました。皆様におかれましては、チケット販売等へのご協力が何にも増して力強い支えになります。どうか力強いご支援、宜しくお願いします。

道徳教科化は戦争できる国への危険な道

安原昭二

道徳は来年度（二〇一八年）から小学校（一九年度には中学校）で「特別な教科　道徳」という名称で週一回の教科（科目）になります。教科ですから国語や算数のように通知簿に評価がつきます。また、文科省による道徳教科書も使います。今までも、週一回「道徳の時間」として時間割にはあったのですが、教科になることでがらりと内容も違ってくるのです。

まず、評価（通知表）の問題です。良い評価をもらおうと思うと、良い答えや発言をしなくてはなりません。だれにとって良い答えや発言なのでしょう。そもそも人の心の中にあるものを「良い、悪い」とだれも決めることはできません。憲法には内心の自由が保障されています。子どもたちも先生も混乱するにきまっています。

つぎに道徳の教科書の問題です。今まで資料集として『私たちの道徳』（文科省）や民間の資料集をある程度、自由に使っていたのですが、教科書になると選択の余地がなくなるでしょう。しかも、検定教科書ですから政府が恣意的に都合のよい内容を盛りこむことも可能です。事実、教科書を見た市民から「個よりも国や社会を上に置いている。個の尊厳が軽んじられている」「家族の実態が今とかけ離れ、無理な内容だ」「権利と義務では義務を強調している」「節度や礼儀といっしょに国旗や国歌の押し付けがある」など多くの問題点があがっています。もともと他の教科とちがい、道徳は学問的な体系がなく、教科にすること自体が間違いなのです。

そもそも、道徳を教科にしようとしたのは第一次安倍内閣の時でした。大きな「いじめ」事件があったことがきっかけだったのですが、いじめは道徳教科化で解決する筋道のものではありません。戦前、天皇のもと戦争にかりだした道徳（修身）が「筆頭教科　修身」でした。そのイメージが重なる「特別な教科　道徳」として今、「子どもの心まで国の思うようにしたい」とする野望が見え隠れします。

先日、こともあろうに「教育勅語をみとめる」発言と閣議決定がありました。戦争の惨禍をもう繰り返してはならないと教育勅語を国会で失効、排除決議をしたのに、今になっての容認発言に「非常識にもほどがある。絶対許すわけにはいかない」と国内外から大きな批判があがっています。

道徳教科化の真の目的は〝戦争できる国づくり〟だということがはっきりしました。戦争のない平和な社会を、未来に生きる子どもたちに届けたい。教育は幸せになる子どもたちのためにあるのです。

（いしかわ県民教育文化センター所長）

文科省副読本「私たちの道徳」

◆はだしのゲンをひろめる会◆「ゲン」の体験を地道に広げよう

神田順一

ＮＰＯ法人はだしのゲンをひろめる会の第五回総会が五月一四日、近江町交流プラザで開かれました。

最初に核と原子力発電の非人間性を問うドキュメンタリー映画『不毛の地』を一般公開でＤＶＤ上映した。ロシアのウラル山脈東側チェリャビンスクにあるマヤーク核施設コンビナートのずさんな核廃棄物管理のため、放射線被害に苦しむ人々の悲劇とこれを告発する住民の活動を追っており、広く活用していきたい作品です。

総会での浅妻南海江理事長のあいさつは次のとおりです。

『不毛の地』を観て核廃棄物処分場をめぐって国家に裏切られた人たちと広島、長崎、そして福島の人たちが重なってみえました。

五月一二日、衆院外務委員会で日印原子力協定の承認案が可決されましたが、二〇一五年一〇月に広島で開かれた世界核被害者フォーラムにてインドの代表が「日本の安倍首相はインドに原発を輸出しようとしている。日本の皆さんはこれを阻止してほしい」と切々と訴えられていたことが印象に残っています。国連で核兵器禁止条約づくりが進む中、私たちは日本政府の核政策を転換させるため、様々な団体と協力しながらゲンの体験を地道に広げていきましょう。

総会では、「原水爆禁止世界大会・国際会議に参加して『はだしのゲン』『Barefoot Gen』を広めよう」「反核・平和おりづる市民のつどいでは昨年好評だった『広島 愛の川』独唱を続けてほしい」「これまでの寄贈実績を中心にリーフレット改訂版をつくり、賛助会員をふやそう」など多彩な意見が出されました。

（はだしのゲンをひろめる会理事）

＊総会の詳しい報告は「はだしのゲンをひろめる会」ＨＰに掲載しました。

非核石川の会リレーエッセー

はくい９条の会の取り組み

北川真知子

はくい９条の会のこの間の取り組みを紹介します。

はくい９条の会は、二〇一五年九月二日から、毎週水曜日午後二時から一五分間オダケホーム前で〝ミニミニ〟サイレント行動をしています。先月から「共謀罪反対」の横幕も掲げています。

四月二三日は、第五回総会を開催しました。金沢合同法律事務所の飯森和彦弁護士に「共謀罪について」のテーマで記念講演をしていただきました。

総会記念講演で「共謀罪」を学ぶ

参加者から▽「共謀罪」は「兇暴罪」であることが理解できた。絶対に廃案にしたい。▽ＮＨＫは「共謀罪」の中継をあまりやらない。止める方法はないのか？などの感想がありました。私は、梨木作次郎弁護士は、治安維持法で捕まった人を弁護したために治安維持法違反で逮捕されたというお話を聞いて、「共謀罪」の行きつく先は人権も何もない社会、権力に物申す人は一網打尽なのだと妙に納得してしまいました。

スーパー前でヒバクシャ国際署名

五月一九日は、スーパーバロー前で「ヒバクシャ国際署名」を呼びかけました。六人で一時間行動して五五筆集めました。「署名しません」の人が多かったけれど、核兵器廃絶の宣伝にはなったと思います。はくい９条の会では、今度は羽咋駅前で高校生を対象に署名に取り組みたいと話し合っています。

「レーニンと『資本論』」学習会に学ぶ

倉元浩信

昨年一二月、山田敬男労働者教育協会会長の講演「注目される科学的社会主義」を聞いた。会長は、「日本における科学的社会主義のあり方が大きく転換している」として、四〇数年の日本共産党の探求の成果に注目し、その内容を具体的に、且つ情熱的に語っ

た。それは現代史研究者に相応しいものであった。

講演に感動した仲間を中心に学習会を開催しようとなった。テキストは向こう見ずにも不破哲三著「レーニンと『資本論』」（全七巻）となった。打合せの結果、毎月一回（二時間）、一巻を三回。学習期間二年とした。集まったメンバーで全巻を通読した人はいない。「月刊学習」に連載された各巻の解説が唯一のナビゲーターである。

二月からはじめて、四月で第一巻「市場理論とロシア資本主義」は終わった。若きレーニンが一八歳で第一部、二〇歳までに『資本論』全三部を手にし、『資本論』の全内容を自分のものとして、ロシア社会の現在と未来を分析する壮大な仕事をやりとげる過程が、ほぼ全体の基調となっている。年齢的には一八歳から二九歳、その間、シベリア流刑生活が五年間もある。

面白かったのは、再生産論と市場理論を表式にし、さらに社会主義社会の市場表式を作成するなどマルクスもやりとげなかった内容にまで及んでいること。もちろん不十分さも〝恐慌論の勇み足〟として指摘。

不破さんは、レーニンのマルクス研究を、「マルクス研究の弁証法」（第二巻「まえがき」）と評しているのもユニークだ。レーニンの成長とあわせて、展開されていく「レーニンと『資本論』」だからこそ「レーニンはレーニンの歴史のなかで読む」という素晴らしい研究方法がつくり出されたのではないか。

青年運動時代、レーニンの論文や著作をアトランダムに読んできた。今回のようにレーニンの成長と併せて、時代背景などを学びながら、学習してこそ、レーニンの素晴らしさも「誤り」も深く理解できるのではないか。古典学習四〇年余の空白が埋められるという期待感が大きい。討論のなかで語られる「生き様」にも学ぶべきものが多い。

詩人会議かなざわ「独標」より

終末時計

喜多村　貢

曇った日
トントン　トントントン
ドアを盛んに叩く音
はーいと玄関に出て見たが
誰もいない
オオカミ少年の来た様子もない
腕時計を覗くと
（三分前だ　もう時間がないぞおという声）

雨が降る日
ドンドン　ドンドンドン
ドアを蹴るような音
何事だと玄関へ走った
いないのだ　またしても
嫌がらせにしては度が過ぎる
サイレンと一緒に
（二分前だ　一分前進したぞおという怒鳴り声）

平和な日の夜
ピカピカ　ドドドドーン
いきなり家中が雷鳴に包まれた
ぐらぐら揺れた途端に　停電
外に飛び出すと
どこも真っ暗くらの暗闇
聞こえたのは
（破滅の日が来たぞおという叫び声）

目を凝らして見渡せば
あちこちに黒こげの死体
呻き声も聞こえる
上空にはジェット機らしい轟音
もうもうと黒い煙もたちのぼる
背筋が凍った
（長針は丁度ゼロ分）

新聞は広げられたまま
覗くと　幾つもの不吉な記事が
ひと塊になって蠢いていた

《編集室より》

◎ガリレオ・ガリレイのつぶやき〝それでも地球は動く〟（宗教裁判『異端審問』）は子どもたちも知っている▼それと同時代の〝われ思う、故に我あり〟は、デカルトが『方法序説』の中で提唱した命題で、科学的な考え方の基礎となっている。谷川徹三は雑誌『展望』で『われとわれら』について――それまで人は『われら』でしかなかったが、それ以後は『われ』であることを認識できた――と述べる▼いま『共謀罪』立法で、この『われ思う』＝『内心の自由』に踏み入るならば、治安維持法（１９４１年）ばかりか『異端審問』（１６３３年）をも連想させることになる。（こ）

◎森友、加計問題、共謀罪法案のデタラメ審議は、国民に深刻な政治不信を招いている▼参議院法務委員会も徹底審議と採決も出来ず、いきなり本会議で「中間報告」動議を出し、強行採決を企んだ。何故このような卑劣な手段をとるのか▼参議院法務委員会・委員長の任にある公明党には強行採決の『泥を被りたくない』ズルさが見える▼テロより怖い、民主主義を求める主権者の抗いで、悪政を一網打尽にするしかない。（平）

シリーズ 石川の地域点描 ⑩

フォトグラファー　中西　優

紫陽花と言えば二〇一二年に首相官邸や国会前で始まった脱原発を求める運動＝紫陽花革命を思い出します。由来は「六月に始まったから」ですが、一説には「小さな花が集まった紫陽花」と「市民が集まって大きな力を発揮すること」をかけたとのこと。なかなか素晴らしいネーミングですね。

もう一つ紹介した花菖蒲が属するアヤメ科の花言葉は「希望」です。六月に咲くこの二つの花を見ていると感慨深いものがあります。

反原発運動のシンボル「紫陽花」＝金沢市大乗寺丘陵公園

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　田伏久子

花言葉は「希望」＝金沢市卯辰山の花菖蒲園

≪非核平和・掲示版≫

月	日	曜	時	内容	場所
6	上映中～23日（金）			映画 「標的の島　風かたか」	金沢市香林坊・シネモンド
	29	木	19:00	第13回 原発・いのち・みらいシリーズ講演会 「東電原発事故から6年 福島で被災した医師が伝えたいこと」種市靖行　さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
7	1	土	13:30	石川県社会保障推進協議会総会記念講演「生きたかったー相模原障害者殺傷事件が問いかけるもの」 藤井克徳さん	金沢市三社・石川県女性センター
	6	木	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	8	土	13:00	治安維持法国家賠償要求同盟石川県本部総会	金沢市昭和町・平和と労働会館3階ホール
	15	土	13:00	北陸学院大学公開講座「生きるに値する世界のためにー貧困と生きづらさを巡って」 対談：雨宮処凛さん・井上英夫さん	金沢市三小牛町・北陸学院大学構内
	22	土	14:00	原発を考える女性の会 総会と講演 「持続可能な環境共生の社会 ―エコの村をつくる」 NPO まめってぇ鬼無里 理事　大日方聰夫さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ
	23	日	10:00	反核・平和おりづる市民のつどい　ピースデー	金沢市卯辰山公園 ・平和の子ら像前広場
	30	日	12:30	いしかわピース9フェスティバル 特別ゲスト・浪速の歌う巨人　趙博-パギやんFROM大阪	白山市美川中町・美川文化会館
8	6	日	8:15	広島の日	
	7日（月）～9日（水）			原水爆禁止世界大会in長崎（総会・分科会・国際フォーラム）	長崎県長崎市
	9	水	11:02	長崎の日	
	9	水	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	15	火		敗戦の日	
	15	火	13:00	不戦のつどい2017年夏	金沢市・JR金沢駅もてなしドーム地下広場
	19日（土）～20日（日）			日本母親大会in岩手　記念講演・安田菜津紀さん	岩手県盛岡市／特別企画「5被災地訪問」

＊ 祝日は休日とします　＊ 毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊ 毎月15日石川県沖縄連帯デー